



# 紫雲児の心

## 困難を乗り越えて強くなる

校長 五十嵐 めぐみ

毎年、秋になると、我が家のイチジクの木について考えます。

今から30年近く前、私は家族と一緒に新発田市内に家建てて引っ越してきました。それから間もなく、「実のなる木がほしいね。」と、まだ幼かった息子と一緒にホームセンターでイチジクの苗木を買ってきて庭に植えました。その翌年くらいだったと思います。台風の強風のため、ようやく育ち始めた我が家のイチジクの木は、二股に分かれた幹の真ん中から真っ二つに裂けてしまいました。それを見た私はショックを受け、「もうだめだ。」とあきらめました。しかし、夫が「大丈夫だ。俺が包帯を巻いてやる。」と言いながら、裂けてしまったイチジクの木をひもでぎゅうぎゅうに縛りました。私は「そんなことしても無理だよ。」と、期待していませんでした。



ところが、イチジクは見事に生き返ったのです。それどころか、以前にも増して元気になり、グングン生長して、やがて多くの実をつけるようになりました。毎年、食べきれないほど収穫できたので、家族だけでなく、近所や親戚、知り合いの人たちにお裾分けしたり、ジャムやケーキにしたりして存分に楽しみました。

昨年、ついに枯れてしまいましたが、長い間、私たちを楽しませてくれたイチジクの木には、とても感謝しています。多くの実をつけて楽しませてくれただけでなく、このイチジクの木は、私たちに大切なことを教えてくれました。それは、「困難にぶつかっても簡単に諦めてはいけない。」「困難を乗り越えてこそ、強くなれる。」ということです。

もし、台風で幹が裂けなければ、我が家のイチジクはこんなにも強く大きく生長しなかったと思います。植物は、適度なストレスを与えることにより、強くなり、栄養を蓄えてたくさんの実をつけ、味も良くなるそうです。人間も同じではないでしょうか。人は、困難を乗り越えることで強くなれます。辛いことや苦しいこと、うまくいかないことがあっても、簡単にあきらめず、それを乗り越えることで、以前より強くたくましく成長できるのです。

令和5年度の半分が終わりました。昨年までと異なり、紫雲寺地域内を歩いて、地域を再発見できたチャレンジ・ウォーク、酷暑を乗り越え、コロナウイルスと闘いながら各軍で協力してやりきった体育祭、例年より少ない練習時間の中でも、リーダーを中心に協力して練習し、当日は一人一人が全力で歌って聴衆に心を届けた合唱コンクール…。日々の授業や部活動などの日常の学校生活の中でも、楽しいこともあれば辛いこともあります。しかし、それらの困難を乗り越えて、生徒たちは着実に成長しています。辛いこと、苦しいこと、うまくいかないことがあっても、あきらめずに粘り強く努力して困難を乗り越えれば、必ず大きな収穫があります。これからも、我が家のイチジクの木のように、困難にぶつかってもそれを乗り越えて、強くたくましく、成長し続けてほしいと願います。